MD-01

冠動脈造影検査における視認狭窄度評価とFFRangio値の不一致についての検討

高田 梨佳那[1]、戸田　光映[1]、川合　真奈[1]、橘　健太郎[2]、有田　陽[3]、小笠原　延行[3]
[1]独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院、[2]独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院、[3]独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院

【目的】冠動脈造影検査（CAG）の視認狭窄度（視認%DS）とFFRangioにおける解析値において不一致を来す症例があるため，視認%DSとFFRangioとの不一致症例に対する予測因子について検討を行った.
【方法】CAGを施行した連続48患者，全79血管を対象に，視認%DS≧75かつFFRangio値≦0.80を虚血有りと定義した．視認%DS≧75かつFFRangio値≦0.80を虚血群，視認%DS≧75かつFFRangio値＞0.80をミスマッチ群，視認%DS＜75かつFFRangio値＞0.80を非虚血群，視認%DS＜75かつFFRangio値≦0.80を逆ミスマッチ群とし，比較を行った.
【結果】虚血群は46例，ミスマッチ群は12例，非虚血群は15例，逆ミスマッチ群は6例となった．虚血群とミスマッチ群では最小内腔径（MLD）で有意差がみられた（虚血群0.99±0.29mmに対してミスマッチ群1.62±0.46mm　：p＜0.01）．非虚血群と逆ミスマッチ群では最小内腔径（MLD）と体表面積（BSA）で有意差がみられた（MLD非虚血群1.76±0.39mmに対して逆ミスマッチ群1.25±0.26mm　：p＜0.01），（BSA非虚血群1.57±0.20mmに対して逆ミスマッチ群1.74±0.08mm　：p＜0.01）.
【結論】FFRangio値と視認%DS間の不一致症例には，MLDが関与する可能性がある.